

ハミングのためのエチュード

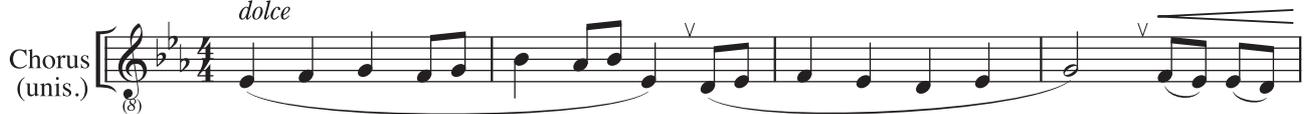
信長貴富 作曲

- この譜面は、混声または男声または女声合唱で演奏できるハイブリッド楽譜です。
 - ※ [男声] Ten.I は記譜音で、Bar.はオクターブ下げて歌ってください。
 - ※ [女声] I・III は音部記号の「8」を削除し、そのまま音記号の音域で歌ってください。
- **A**のみ、**B**のみ、**C**のみ……のように、各部分を取り出して演奏できます。
譜面にはありませんが **A+C** も可能です。
- 続けて演奏する場合は譜面の順番に **A**→**B**→**C**→**B+C**と歌ってもいいですし、どこかの部分を飛ばしたり、あるいは最初に戻ったり自由にシャッフルして構いません。

A 斉唱

Andante amoroso e largamente

dolce



sonoro

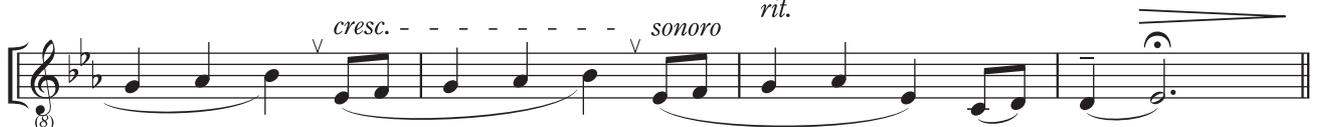


mezza voce

cresc.

sonoro

rit.



※カッコ内の文字は男声合唱／女声合唱のパートを示しています。

B 四部合唱

Andante amoroso e largamente

The musical score is arranged in four systems. The first system is for the Soprano, Alto, Tenor, and Bass parts, all marked *dolce*. The Soprano part is marked with a double bar line and a repeat sign. The second system continues the vocal parts, with the Soprano part marked *sonoro* and the other parts marked *sonoro*. The third system continues the vocal parts, with the Soprano part marked *mezza voce* and the other parts marked *sonoro*. The fourth system continues the vocal parts, with the Soprano part marked *mezza voce* and the other parts marked *sonoro*. The score includes various dynamics such as *dolce*, *sonoro*, and *mezza voce*, as well as performance instructions like *cresc.* and *mezza voce*. The Soprano part is marked with a double bar line and a repeat sign. The score is in 4/4 time and features a key signature of two flats.

Soprano
※ (Bar. / II)

Alto
※ (Ten. I / IV)

Tenor
※ (Ten. II / I)

Bass
※ (Bass. / III)

dolce

sonoro

mezza voce

cresc.

小音符を加えてもOK

□ 二部合唱「故郷」(高野辰之 作詞/岡野貞一 作曲/信長貴富 編曲)

Andante amoroso e largamente

lontano

Sop.+Ten.
(Ten.I+II / I+II)

cantabile

Alto+Bass
(Bar.+Bass / III+IV)

cresc.

cresc.

□ + □ Andante amoroso e largamente

lontano

Sop.+Ten.
(Ten.I+II / I+II)

cantabile

Alto+Bass
(Bar.+Bass / III+IV)

dolce

Soprano
(Bar. / II)

dolce

Alto
(Ten.I / IV)

dolce

Tenore
(Ten.II / I)

dolce

Basso
(Bass. / III)

Musical score for the first system. The piano part consists of two staves, both marked with *cresc.* (crescendo). The string quartet part consists of four staves, each marked with *sonoro* (sonorous). The strings include dynamic accents (*v*) and a *mezza voce* marking in the final measure.

Musical score for the second system. The piano part continues with *cresc.* markings. A Japanese annotation reads "小音符を加えてもOK" (Adding small notes is also OK). The string quartet part continues with *mezza voce* and *sonoro* markings, along with dynamic accents (*v*).

ハミングのためのエチュード [解説]

この曲は山田和樹さんのご提案と理念を私なりに形にしたものです。新型コロナウイルスの拡大によって活動が難しくなっている合唱団が多い中で、日常の中に声を合わせる場面を復活させ、ひいては合唱活動を拡大させる、その小さなきっかけを作ることを一番のねらいとしています。

特に重視したことは子どもから大人まで幅広く歌える（歌える部分がある）ものにする。そのために、ユニゾンや二部合唱で歌える箇所を設けることや、混・男・女声（童声）問わずどの編成でも歌える譜面になっている等の工夫を盛り込んでいます。

ハミングのみの音楽を作るにあたっては、歌詞が無いことをどう乗り越えるか、歌唱のモチベーションをどう作るかが一番の課題であると私は感じていました。純粹に器乐的に作曲するよりも、曲の背景に言葉の気配があり、その意味や言葉らしい運動性を手がかりとして歌う動機を作っていくことができないかと考えました。そうして考案した仕掛けが岡野貞一作曲の「故郷」を用いたダブルコーラスです。オリジナルの旋律 **A** とそれを四声に広げた **B**、それに対して「故郷」 **C** が示され、最終形として二重合唱 **B+C** へと発展するという仕掛けです。

「故郷」の詩は、いまはその景色の中に立っていない主人公が遠く離れた土地や人々を思っている、そういう内容です。 **A** や **B** はそのような具体的な心情を帯びていないわけですが、背後にその風景が透けている、あるいはいま立っている場所から「故郷」を遙かに見ている、そんなふう感じられるかも知れません。あるいはその二つの重なり合いに、コロナ禍で声を合わせようとするこの意味を見出してくださる方もいらっしゃるかも知れないと思います。歌詞がないぶん、解釈は広がるでしょう。

合唱団は何かの本番に向けて練習を積み重ねていることが多いわけですが、日々の練習あるいは生活の中にこそ歌う喜びがある、そんなイメージを実現したいと思い「エチュード」という言葉を表題に用いました。合唱団の技術的な進度に合わせて部分的に練習に取り入れたり、ゲーム感覚で **A** から **B+C** へとクリアしていったり、自由に使っただけであればと思っています。

2020年7月

信長貴富